様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２５年５月３０日現在

機関番号：３７１１７
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2009～2012
課題番号：２１５２０３５９
研究課題名（和文）　ネルヴァルにおける視覚芸術と文学作品の関係

研究課題名（英文）　Relationship between the Literature of Gérard de Nerval and Visual Art Works

研究代表者
間瀬　玲子（MASE REIKO）
筑紫女学園大学・文学部・教授
研究者番号：30219357

研究成果の概要（和文）：19 世紀フランスの作家ジェラール･ド･ネルヴァルの全文学作品における視覚芸術に関する記述及びネルヴァルが作品内で言及している他の作家たちの著作の図版の検証作業を行った。その結果ネルヴァルが視覚芸術や他の作家たちの著作物の図版から影響を受けて、文学世界の構築を行ったことを立証した。

研究成果の概要（英文）：This study examines statements on visual art in all the works of the nineteenth-century French author Gérard de Nerval as well as his literary references to illustrations in the works of other authors. This study concludes that the body of literature created by Gérard de Nerval was influenced by works of visual art and illustrations in the literature of other authors.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００９年度	900,000	270,000	1,170,000
２０１０年度	500,000	150,000	650,000
２０１１年度	600,000	180,000	780,000
２０１２年度	200,000	60,000	260,000
年度			
総　計	2,200,000	660,000	2,860,000

研究分野：１９世紀フランス文学
科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ文学（英文学を除く）
キーワード：ネルヴァル、視覚芸術

１．研究開始当初の背景

(1) ネルヴァルは雑誌『アルチスト』誌 1844 年 9 月 15 日号に「ディオラマ、オデオン座」と題する評論を発表した。ディオラマは 19 世紀前半の短い期間に流行した視覚芸術である。この評論の中でネルヴァルはディオラマそのものよりも聖書に描かれたエノクの町やカインについて論じている。その際クール･ド･ジェブラン、ファーブル･ドリヴェ、ピエール･ラクールなどの思想家の名前を列挙している。

(2) 18 世紀の思想家クール・ド・ジェブランの『原始世界』は膨大なページ数の著作であ

り、フランス国立図書館の電子テキストサイト Gallica に収録されている。『原始世界』に掲載されているタロットカードの図版がネルヴァルの『オーレリア』に描かれた大洪水の場面に影響を与えたという推論を立てた。

(3) 18 世紀の言語学者・文献学者であるファーブル・ドリヴェに関してはネルヴァル研究にとって重要な『復元ヘブライ語論』のみならず、他の著作も刊行されている。これらの作品はGallicaからダウンロードすることも可能である。研究の結果『復元ヘブライ語論』の巻末に収録された独自の解釈に基づく『創世記』からネルヴァルが影響を受けたことを実証した。

(4) 18 世紀の考古学者で画家のピエール・ラクールが執筆した『エロヒムあるいはモーゼの神々』の複写をフランス国立図書館から入手し、ネルヴァルの作品との関連性を考察した。聖書の『創世記』に関する解釈の点で影響を受けていることを実証した。

(5) またネルヴァルの上記の評論では言及されてはいないが、ネルヴァルに多大な影響を与えたとされるバルテルミー・デルブロの『東洋文庫』の原典及び電子テキストを入手し、その影響関係を考察した。ネルヴァルがディオラマのテーマのひとつである「大洪水」を見た時、『東洋文庫』を思い起こした可能性がある。

(6) フランスの国立研究機関である ATILF が提供している全文データベース Frantext を利用してディオラマの調査を行った。コーパスを文学作品に限定し調査を行い、次にヒットした各作品の原典を調べ、ネルヴァルと他の作家たちがディオラマをどのように考えていたかを考察した。作家によってディオラマに対する評価や描写の仕方はさまざまである。19 世紀前半の短い期間に流行したディオラマがその形態を大きく変え、現在まで作家の記憶の中で生き残っている証拠が各作家の作品の中に見てとれる。

(7) ディオラマのような視覚芸術が日本ではどのように上演されていたのか、また日本の作家たちがディオラマやパノラマをどのように作品内で描写したのかを調査した。近年日本では視覚芸術に関する研究が盛んに行われるようになったので、研究が容易になった。なおパノラマはディオラマよりも前に流行した視覚芸術の一形態である。日本ではフランスと違い、パノラマとディオラマ（日本ではジオラマと表記する）が同時期に上映された。しかし他の視覚芸術の出現により長くは続かなかった。

(8) 以前研究していた 18 世紀ポーランド系の作家ヤン・ポトツキの全集が刊行されたので、ネルヴァルがポトツキからどのような影響を受けたのかを考察した。特にネルヴァルが作品内で言及している『サラゴサ手稿』を重点的に研究した。生きた時代も環境も全く違うポトツキとネルヴァルが旧約聖書偽典『エノク書』、クール・ド・ジェブラン、バルテルミー・デルブロの影響を受けたことを実証した。

(9) ネルヴァルが『エノク書』に関して言及した箇所に注目した。またネルヴァルが言及している 17 世紀のドイツ出身のイエズス会士アタナシウス・キルヒャーの『エジプトのオイディプス』に収録された『エノク書』(ギリシャ語）及びラテン語訳を検証した。ネルヴァルは『エジプトのオイディプス』に収録された『エノク書』及びパンの神を描いた図版から多大な影響を受けていた。なおパンの神を描いた図版をもとにして自身の作品『赤い悪魔』の中でルシファーの絵を挿絵画家に描かせている。フランス国立図書館から『赤い悪魔』の複写を入手し、『エジプトのオイディプス』と比較検討を行った結果、その影響関係を立証することができた。

(10)上記の研究を行うことによって、ネルヴァルは数々の著作の本文だけではなく、そこに掲載された図版から多大な影響を受けたことを再認識した。しかも複数の著作の図版を参考にして、作品執筆を行ったのではないかという推論を立てるに至った。今まではネルヴァルがディオラマから受けた影響を考察してきたが、視覚芸術全般からの影響関係に研究範囲を広げる考えを持つに至った。

２．研究の目的

(1) ネルヴァルの全文学作品において絵画、写真、演劇、オペラ、ディオラマのような視覚芸術がどのように描かれているのかを検証する。次にネルヴァルが参考にした思想及び視覚芸術に関する著作の本文及び図版を検証する。

(2) この検証作業によってネルヴァルが文学作品を創造する際に視覚芸術そのものから影響を受けただけではなく、他の著作家たちの著作の図版から多大な影響を受けたことを実証することを目的とする。つまり視覚芸術の印象と多くの著作の図版がネルヴァルの想像力の世界の中で混ざり合って、独自の世界を構築したという推論を証明することを目的と

する。

３．研究の方法
(1) ネルヴァルの全文学作品の中で絵画、写真、演劇、オペラ、ディオラマのような視覚芸術がどのように描かれているのかを調査してデータベース化する。ネルヴァルのプレイヤッド版には図版が収録されていないので、上記の作業で浮かび上がったネルヴァルの作品の初出記事の複写をフランス国立図書館から取り寄せる。電子テキストがあればダウンロードを行う。

(2)ネルヴァルが作品内で言及した図版を掲載している著作及び絵画の点検を行う。電子テキストがあればダウンロードを行う。絵画の場合は美術館を訪問し原画を調査する。場合によっては画集の調査も行う。演劇、オペラなどは台本を入手して検討を行う。

４．研究成果
(1) 平成 21 年度は視覚芸術の観点からネルヴァルの作品及びネルヴァルが参考にした書籍の図版の検討作業を行った。
　ネルヴァルが『東方紀行』を執筆する際に参考にした『ヒュプネロトマキア・ポリフィリ』(『ポリフィルの夢』) の原典、フランス語訳、英語訳、現代フランス語訳、現代英語訳の書籍、電子テキスト、CD-ROM を入手し、比較検討作業を行った。原典の電子テキストをフランス国立図書館電子テキストサイト Gallica からダウンロードして、それを検索可能なテキストに変換した。この作業により、ネルヴァルは原典ではなく、フランス語訳を参考にしたことを証明することができた。この結果を本務校の紀要に論文として発表した。
　ネルヴァルが作品執筆に際して影響を受けたヴァトー「シテール島への巡礼」及びデューラーの「メランコリアＩ」を鑑賞し、絵画と文学作品との関係を考察した。またネルヴァルと関わりのある画家や音楽家の作品及び研究書を検討した。

(2) 平成 22 年度はネルヴァルの諸作品と『ヒュプネロトマキア・ポリフィリ』の原典とフランス語訳の比較検討作業を継続した。8 月に韓国のソウル、中央大学校で開催された第 19 回国際比較文学会で研究発表を行った。学会終了後に論文にまとめ、学会事務局に送付した。
　またアタナシウス・キルヒャーの『地下世界』の電子テキストを入手し、収録されている「地球の内奥」「ヴェスヴィオス山」「エトナ山」の図版とネルヴァルの作品を比較検討した結果、ネルヴァルが『地下世界』から影響を受けた可能性があるという結論に達した。この研究結果を本務校の紀要に発表した。
　最後に画家セレスタン・ナントゥイユとネルヴァルの関係を調査した。ネルヴァルの作品及び人生に関わるナントゥイユの版画を分析した。またアリスチッド・マリによるナントゥイユの伝記に掲載されている版画も分析した。

(3) 平成 23 年度は 22 年度に引き続き、画家ナントゥイユとネルヴァルの関係を分析した。まずネルヴァルが刊行した雑誌『演劇界』に掲載されているナントゥイユの挿絵を分析した。またネルヴァルの死後ナントゥイユが発表した版画の分析も行った。今日ではほとんど論じられることのないナントゥイユに光をあてることができたと考えている。研究成果を本務校の研究所年報に発表した。
　画家カミーユ・ロジエとネルヴァルの関係を分析した。ネルヴァルが創刊した雑誌『演劇界』に掲載されたロジエの挿絵、ネルヴァルが序文の下書きを書いたとされるロジエの画文集『トルコ』の挿絵を分析した。ロジエに関する新たな研究資料がないので、研究資料の収集はかなり困難であった。研究成果を本務校の紀要に発表した。
　最後にクール・ド・ジェブランの『原始世界』全巻の電子テキスト及び原書を入手し、収録されている挿絵がネルヴァルに与えた影響の可能性を考察した。
　本研究を始めた頃に、ネルヴァルと比較対照するために日本の作家がディオラマやパノラマをどのように描いたかを研究した。その時に江戸川乱歩について調査を行った。日本比較文学会が「日本文学が海外でどのように紹介されているか」についての論文を募集した。そこで「フランスにおける江戸川乱歩と横溝正史の受容」と題する論文を提出し、編集委員会の審査及び査読を経て受理された。この論文が収録された図書『越境する言の葉』が 6 月に彩流社より刊行された。

(4)平成２３年度に続き、平成２４年度にネルヴァルが評論「ディオラマ、オデオン座」で言及したクール・ド・ジェブランの『原始世界』の分析を行った。膨大な作品である『原始世界』の図版の中でネルヴァルに影響を与えたのは第８巻の巻末に掲載されているタロットカードの１７番の星の絵だけであるという推論を立てた。
　イタリアの作家アリオストの『狂えるオルランド』がネルヴァルに与えた影響を検証した。19 世紀に流通していたとされる『狂えるオルランド』のフランス語訳の書籍及び電子テキストを入手した。その中にはネルヴァルと交友関係のあったナントゥイユが描いた挿絵が多数収録されている翻訳もある。ネル

ヴァルの全作品において『狂えるオルランド』に関して言及した箇所を検討した。次にネルヴァルが『狂えるオルランド』と一緒に言及したコルネイユの『ポリュークト』及びヴォルテールの諸作品との関連性を検証した。検証結果を本務校の紀要に発表した。

またイタリアの作家タッソの『解放されたエルサレム』がネルヴァルに与えた影響の考察を開始した。ネルヴァルが参照した可能性のあるフランス語訳の書籍及び電子テキストを入手した。

ネルヴァルが刊行した雑誌『演劇界』の第１巻、第２巻、第３巻の電子テキスト及び書籍を入手した。ネルヴァルが執筆した記事の特定は難しいが、当時の演劇状況を知ることができた。

第 19 回国際比較文学会事務局から、学会終了後に送付した論文が論文集に収録されるという趣旨のメールを受け取った。掲載予定の論文の最終チェックを行い、学会事務局に送付した。2013 年 6 月ソウルで論文集が刊行される予定である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計５件）

① 間瀬玲子、「ネルヴァルの作品における『狂えるオルランド』の影響」、『筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部紀要』、査読無、第 8 号、2013, 77-88
② 間瀬玲子、「ネルヴァルとカミーユ・ロジエの絵画」、『筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部紀要』、査読無、第 7 号、2012, 65-75
③ 間瀬玲子、「ジェラール・ド・ネルヴァルとセレスタン・ナントウィユ」『筑紫女学園大学・短期大学部人間文化研究所年報』査読無、第 22 号、2011、163－176
④ 間瀬玲子「ネルヴァルとアタナシウス・キルヒャー」『筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部紀要』、査読無、第６号、2011、103-114
⑤ 間瀬玲子「ネルヴァルの作品と『ヒュプネロトマキア・ポリフィリ』(『ポリフィルの夢』) の比較」『筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部紀要』査読無、第５号、2010、81-92

〔学会発表〕（計１件）

① Reiko MASE 《La réception du *Songe de Poliphile* (*Hypnerotomachia Poliphili*) chez Gérard de Nerval》, Congress of the International Comparative Literature Association, Chung-Ang University, Seoul, Korea, August 20 2010

〔図書〕（計１件）

① 間瀬玲子「フランスにおける江戸川乱歩と横溝正史の受容」、日本比較文学会編『越境する言の葉　―　世界と出会う日本文学　日本比較文学会学会創立６０周年記念論文集』、彩流社、2011、237-247、査読有

〔産業財産権〕

○出願状況（計０　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ReaD & Researchmap
http://researchmap.jp/read0176874/

筑紫女学園大学　教員情報
http://www.chikushi-u.ac.jp/about/scholarship/detail.php?id=63

６．研究組織
(1)研究代表者
間瀬　玲子（MASE REIKO）
筑紫女学園大学・文学部・教授
研究者番号：30219357

研究分担者・連携研究者はなし